

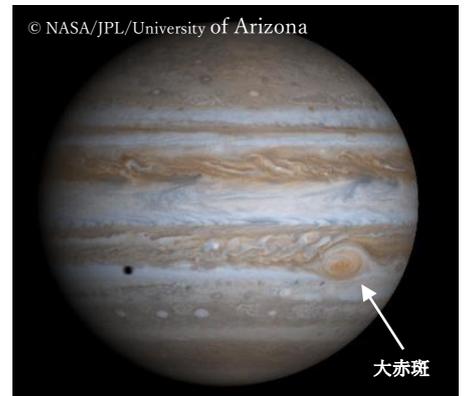
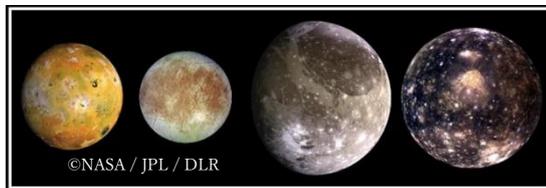
★今月の星もよう★

3月中旬の宵の頃、冬の星座は西に移り始め、春の星座が東の空に昇ってきます。天頂付近にあるふたご座では木星が明るく輝いており、南東の空にはしし座が昇っています。しし座はライオンの姿をした星座で、「？」(ハテナ)を裏返した星の並びがししの頭部にあたり、心臓の所に1等星レグルスが輝いています。ふたご座の1等星ポルックスとしし座のレグルスの間にはかに座があります。誕生星座として知られていますが、暗い星ばかりで見つけにくいかもしれません。ここには「プレセペ星団」という星の集まりがあり、双眼鏡で見ることができます。



★木星に注目★

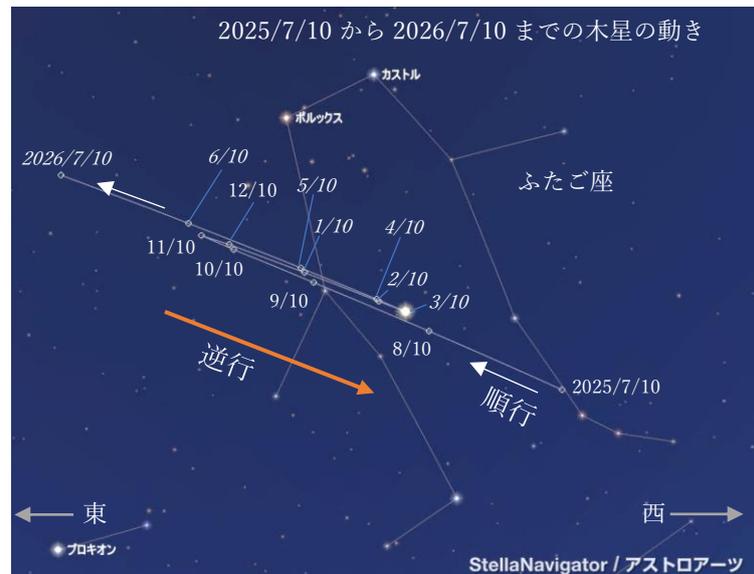
木星は、主に水素とヘリウムからなる太陽系最大の惑星で、その直径は地球11個分にもなります。表面に見える縞模様は厚い雲の帯で、口径80mm程度の天体望遠鏡でも2本の縞模様が観察できます。「大赤斑」は巨大な台風のようなもので、地球がすっぽり入るほどの大きさがあります。



木星の衛星は現在97個確認されており、中でもガリレオ衛星と呼ばれる4つの大きな衛星は1610年に天文学者のガリレオ・ガリレイによって発見されました。(上図参照。左からイオ、エウロパ、ガニメデ、カリスト。)2023年には、日本も参加するJUICE(木星氷衛星探査計画)によってエウロパやガニメデの内部に海が存在するのか調べる探査機が打ち上げられ、2031年頃に木星系に到着する予定です。

★外惑星が見せる逆行★

地球から見ると、恒星や惑星は、一夜の中で時間とともに東から西へ動いていきます。これは地球の自転によるものです。また、地球や他の惑星は太陽の周りを同じ方向に回っており、火星、木星、土星など地球より外側を回っている惑星(外惑星)は、地球から見ると、恒星に対してゆっくりと西から東へ移動していくように見えます。星座の中をさまようように見えるので、惑星「惑星」と呼ばれるのです。この西から東への移動を「順行」と呼びます。それに対して、東から西への移動は「逆行」と言い、地球が太陽の周りを回っている中で外惑星と並んだ後、追い越す時に起こる現象です。自分の車が隣の車を追い越す時、相手の車が後ろに下がっていくように見える現象と同じです。



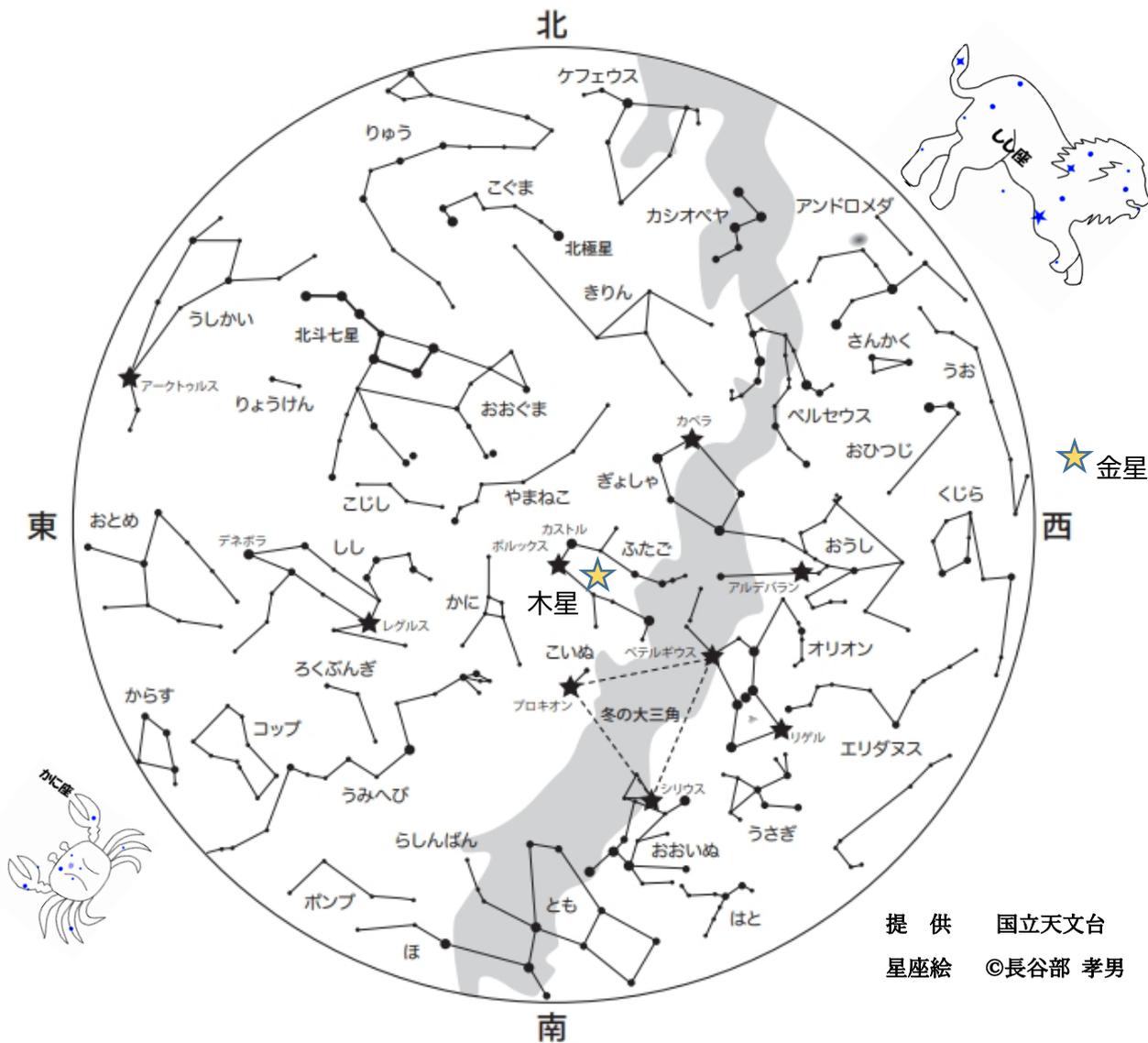
木星は2025年11月12日から2026年3月10日まで逆行して西に移動していきますが、11日に留(動きが止まったように見える)となり、以降は順行となって、東向きに動いていきます。

☆3月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み

3/2(月)、9(月)、16(月)、17(火)、18(水)、23(月)、24(火)、30(月)

3月中旬 午後8時頃の星空



提供 国立天文台
星座絵 ©長谷部 孝男

★ 3月の主な天文現象 ★

ことしいちばん てんもんげんしょう かいきげつしよく 今年一番の天文現象・皆既月食

3日(火) ● 満月 皆既月食

8日(日) ● 金星と土星が接近

11日(水) ● 下弦 木星が留

19日(木) ● 新月

20日(金) ● 春分の日

26日(木) ● 上弦
● 月と木星が接近

3月3日の夜に皆既月食が起きます。18:49 から月が欠け始め、月全体が地球の影に入る皆既食は20:04 から 21:03 までと約1時間続き、22:17 に終了します。次回の皆既月食は、2029年1月1日とだいぶ先になるため、この機会に観察してみましよう。現在ジオスペース館プラネタリウムでは皆既月食の再現をすることができます。また、プラネタリウム星空撮影会で皆既月食の様子を撮影できます。



↑プラネタリウム星空撮影会で撮影した皆既月食